

＜開催レポート＞  
 デジタルハリウッド大学[DHU]  
 落合陽一特任教授 監修  
 2020年度夏季集中講義「メディアアート」  
 「え、リモートじゃないの？展」



デジタルコンテンツと企画・コミュニケーションを学ぶデジタルコミュニケーション学部(4年制大学)と、理論と実務を架橋し新たなビジネスを生み出すデジタルコンテンツ研究科(専門職大学院)を設置しているデジタルハリウッド大学[DHU](所在地 東京・御茶ノ水、学長 杉山知之)では、2020年8月22日～9月6日まで、落合陽一特任教授による夏季集中講義「メディアアート」講義及び成果発表展示会を実施しました。

夏季集中講義「メディアアート」は2017年より毎年実施されており、今年で4年目を迎えます。

「知の源泉／表現」を学ぶ教養科目として本講義が設置されているデジタルコミュニケーション学部の学生だけでなく、専門職大学院(デジタルコンテンツ研究科)、および設置会社デジタルハリウッドの事業である専門スクール等からも受講生を募り、多様な年齢層や専門分野のチームを編成。初回講義から展示会開催までを一週間で集中的に行いました。

## 【日程】

- ①授業 8月22日(土)8:40-10:10、10:20-11:50
- ②授業 8月23日(日)8:40-10:10、10:20-11:50

③授業 8月24日(月)8:40-10:10、10:20-11:50

④授業 8月25日(火)8:40-10:10

8月26日(水)制作期間

8月27日(木)制作期間

8月28日(金)制作期間

8月29日(土)制作期間

⑤8月30日(日)8:40-10:10 評価会

展示会 31日～9月6日

### ■落合陽一 特任教授 担当講義「メディアアート」授業概要(授業シラバスより抜粋)

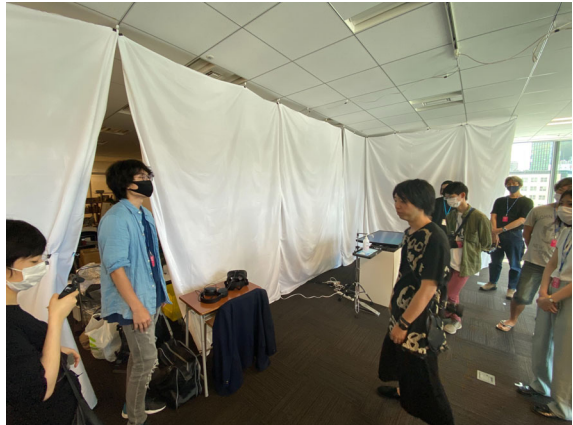
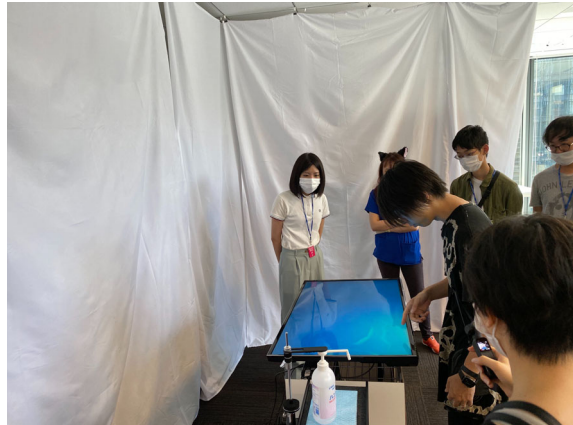
メディア装置の発明を伴う芸術活動が近年盛んに行われるようになってきている。文化的表現の手法として計算機科学や応用物理や生物などの工学的発明を伴った表現について国内外で注目が集まりつつあり、今後の社会要請としてスポーツイベントや文化イベントなどで積極的にそのような表現が求められてくると予想される。本講義及び演習では、メディア技術史とメディア表現技術を概観し、斬新な表現方法について考察した上でグループワークまたは個人により作品を制作し展示会を運営する。



<初回授業風景>

本講義は新型コロナウイルス感染症への対策として、消毒・検温・マスク装着等を行いながら対面授業を実施しました。





## <評価会の風景>

展示会は Web からの予約申込み制とし、場内の人数を制限して開催いたしました。

### ■展示会「え、リモートじゃないの?展」ステートメント キービジュアルより抜粋

いつもの ZOOM に誰もいない。

ディスプレイに映るイメージの数々が懐かしいのは、どうしてだろう。

部屋の中で思い出を失いながら淡々と続く日常よりも、

本当の世界のように思えた。

「え、リモートじゃないの?」

密を避けながらと思い外へ出ると、夏は既に陰りを見せていた。

<展示作品一覧>



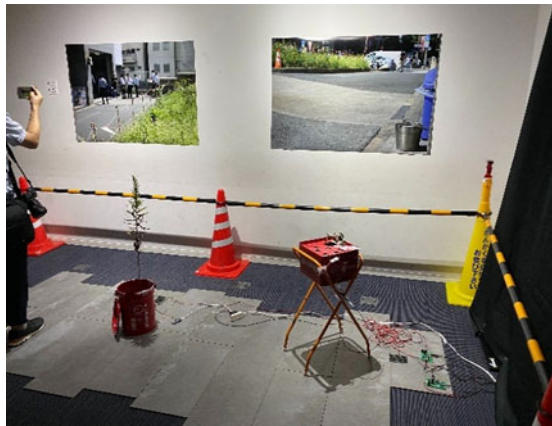
世界からもし、アイデアが無くなったら



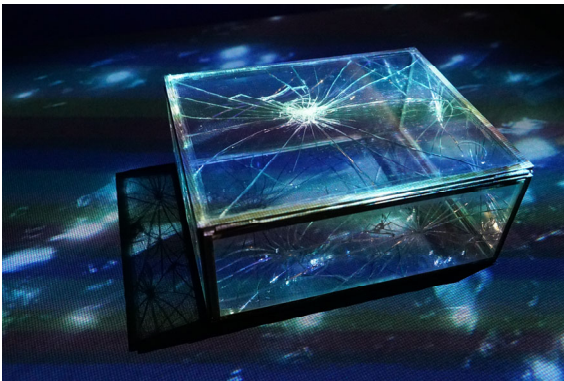
「懐古」への邂逅



唇会談



ちゃんと生えている



Broken Reflections



We are, not I am



「感情処方箋」-未来 Be One クリニック



Under The Concrete

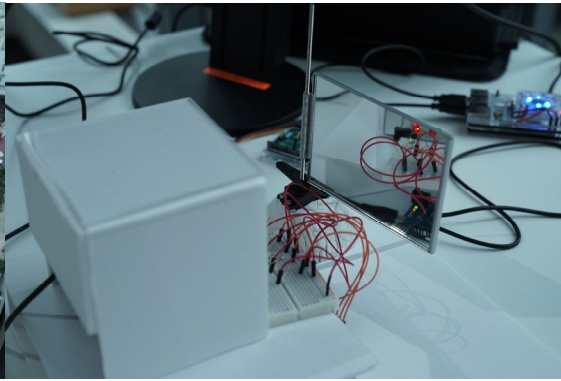


# PRESS RELEASE

DIGITAL HOLLYWOOD 2020



愛読花



きっとまた、あっちとつながる



消毒瘴毒



ころと距離と地図



通用する青春



人工物と自然物の逆転



あなたが生活している地面の裏側



うるささ(2013 - 2015)



叡智の科学信仰

## ■参加学生の感想コメント(「唇会談」を制作し MVP を受賞した平松レイナさん・学部 4 年生)

フィジカルな出会いが少ない昨今。偶然出会った 18 人が一丸となり、たった 9 日間で個人作品を作りつつ展示会という一つの共通した世界を創り上げる感覚は刺激的でした。また必要最低限のコミュニケーションが取られがちな今だからこそ「何気なく生まれる会話」の重要性を実感しました。前例がひっくり返され続ける歴史の渦の中でそれに順応させた形で作品をアウトプットした経験は今後飛躍するためのバネの仕込みとなりました。

## ■担当教員プロフィール

### 落合 陽一 特任教授

筑波大学デジタルネイチャー

開発研究センター センター長、准教授

大阪芸術大学客員教授

Pixie Dust Technologies CEO

デジタルハリウッド大学 特任教授

メディアアーティスト。1987 年生まれ。東京大学大学院学際情報学府博士課程修了(学際情報学府初の早期修了)、博士(学際情報学)。筑波大学准教授・デジタルネイチャー推進戦略研究基盤代表・JST CREST xDiversity プロジェクト研究代表・一般社団法人 xDiversity 代表理事。2015 年 World Technology Award、2016 年 Prix Ars Electronica、EU より STARTS Prize 受賞。Laval Virtual Award を 2017 年まで 4 年連続 5 回受賞など、国内外で受賞多数。個展として「Image and Matter (マレーシア・クアラルンプール,2016)」や「Imago et Materia (東京六本木,2017)」、「ジャパニーズテクニウム展(東京紀尾井町,2017)」、「落合陽一、山紫水明の事事無碍の計算機自然」(東京・表参道,2018)、「質量への憧憬(東京・品川,2019)」など。グループ展では「Ars Electronica Festival」「SIGGRAPH Art Gallery」、「県北芸術祭」や「Media Ambition Tokyo」などに参加。近著として「日本進化論(SB クリエイティブ)」、「デジタルネイチャー(PLANETS)」、写真集「質量への憧憬(amana)」

## 【デジタルハリウッド大学 [DHU] とは】

<https://www.dhw.ac.jp/>

2005 年 4 月、文部科学省認可の株式会社立の大学として東京・秋葉原に開学(現在の所在地は東京・御茶ノ水)。デジタルコミュニケーション学部(4 年制大学)とデジタルコンテンツ研究科(専門職大学院)を設置している。

デジタルコミュニケーション学部では、不確実で予測不能な未来を自分らしく生き抜く力を身につける。デジタルコンテンツ(3DCG、ゲーム・プログラミング、映像、グラフィック、Web デザイン、メディアアート等)と企画・コミュニケーション(ビジネスプラン、マーケティング、広報 PR 等)を産業界の第一線で活躍する教員から幅広く学べる 1 学部 1 学科制を採用。さらにグローバル人材を育成するために外国語の重点的な学習プログラ

ラムを備え、海外留学を推進している。世界 40 개국・地域出身の学生が在籍し、御茶ノ水駅前が多様性に富むキャンパスを運営している。また、大学発ベンチャー設立数は全国 11 位(2019 年度実績)となっており、多数の起業家を輩出している。



# PRESS RELEASE

DIGITAL HOLLYWOOD 2020



【当プレスリリースに関するお問い合わせ】

デジタルハリウッド株式会社 広報室:川村

mail:press@dhw.co.jp

TEL:03-5289-9241

-----  
デジタルハリウッド公式サイト :<https://www.dhw.co.jp/>

学長ブログ「スギヤマスタイル」: <https://www.facebook.com/SugiyamaStyle>

過去のプレスリリース:<https://www.dhw.co.jp/pr/release/>  
-----